

日時 平成28年4月18日（月） 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者42名。（県警）

その他被害多数。（資料参照）

避難者数等は資料のとおり。避難者数10万人弱。熊本市5万人。

3 県等の対応状況

（危機管理監）

被害の状況等について、市町村からの情報については11時から変更ない。これは市町村とやり取りして精査中だが、市町村が避難所の運営に手が足りない状況にある。名簿を取るなどして照合を進めたい。

他機関からの人的支援についても、前回と同じ。本県職員の被災地への直接派遣については、情報収集と支援のために被害の大きかった益城町や南阿蘇村等に重点派遣している。事務的に進まないところには重点的に派遣していきたい。

（県警本部）

緊急物資輸送に伴う交通渋滞の解消のために、植木IC以外で降りるルート図を作成して、警察、運送業者等に対して広報周知を図ることを考えている。

緊急支援物資の輸送について、佐賀県鳥栖の集積地に集めて業者のトラックで各市町村に配送する。その際、高速道路については福岡県警、一般道については植木ICから熊本県警のパトカーで先導して渋滞回避の支援をしたいと考えており、第一便として大津町と宇城市への配送便が出発。

（九州電力）

停電状況について、熊本市は送電完了し、前回より8700戸解消。

（西部ガス）

ガスの復旧体制について、4月21日までに他業者を含めて3000名体制になるよう計画中。

（熊本市上下水道局）

熊本市内の上水道について、13区域のうち10区域で通水または一部試験通水。現在76.4%の通水率になっている。

（自衛隊）

生活支援物資の避難所への搬送について、夜通しになるが、東京から届くので迅速に陸自・空自が一体となって加速させる予定。

(気象庁)

一週間程度は震度6弱程度の余震を警戒が必要。明日の朝にかけて山沿いで霜が降りる。冷え込みに注意が必要。

(国土交通省)

国道57号の崩落箇所について、工事用進入路の確保のための現地調査に着手。土砂災害の2次災害防止のための専門家チームを派遣。

(海上保安庁)

三角、熊本、八代港において巡視船4隻で給水、入浴、携帯電話の充電等の支援を行っている。航空機は3機待機させており、DMATからの要請により病院間の患者の移送を1件行った。

(経済産業省)

高森町のガソリン給油について、5か所全ての給油が可能になった。一方、南阿蘇村の全給油所は休止中だが、明日の朝から高森町のJA阿蘇高森給油所を南阿蘇村向けに開放する。

#### 4 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

行方不明者の捜索、被災者の生活支援に尽力いただいている皆様に、厚く御礼を申し上げる。いくつか私のお願いの意味も込めて、現状の確認をさせていただきたい。

建物の応急危険度判定について、2次災害を防ぐために中止されている部分もあるが、いつ頃までに終わらせるという計画はお示しいただけるか。

(土木部)

明日から、県外からの判定士の派遣を更に70名増やしていただき100名体制で行う。

場所的に入れないところもあるが、概ね1週間で考えている。

(松本副大臣)

概ね1週間で住めるかどうか分かるという理解で良いか？

(土木部)

基本的にそう考えていただいて結構。参考だが、大きなマンションについては熊本市が尽力しており、多く住んでいるところを急いでいる。

(松本副大臣)

水道が復旧するということで期待が大きかった分、復旧しなかった地域はちょっと落胆があると思うが、明日には完全復旧までいけそうか。

(熊本市上下水道局)

漏水箇所の修理を終えて通水すると新たな漏水箇所が見つかるといった状況。見つかった分は今夜中に終わらせたい。

(松本副大臣)

避難所の運営が十分にできていないと思っている。避難場所からのニーズが十分に町や県、国の非常対策本部に届いていないのではないかとと思っている。そこで、この避難

所で一番時間を割いているのがDMATだと思う。DMATには申し訳ないが、本来業務のほかに水不足や物資の不足品といった情報をできるだけ集めて本部へ報告してもらえないか。

(厚生労働省)

承知した。DMATが避難所を回っているほか、保健師の巡回を始めているところ。さまざまな課題が聞こえてくるが、内閣府防災とも連携して対応したい。

(松本副大臣)

被災者の食糧等の入手元となるコンビニやスーパーだが、コンビニ商品の供給量は増えているが、まだ不足していると思っている。あと3倍ぐらい集中させてくれと頼んだが、どのように考えるか。これ以上は国にプレッシャーはかけなくてよいか。

(知事公室)

(ライフラインが回復すれば家に帰って自炊ができるようになりコンビニ需要は減るかもしれないが) 帰宅しても自炊できるか分からないので流通量は増やして、すべてに行きわたるようになるまでは、たとえ過剰になったとしても流通を増やしていただけると有難い。

(松本副大臣)

アイデアがあれば担当部署に関係なく積極的に国を使ってほしい。

他自治体からの応援についてだが、市町村の人出が圧倒的に足りない。私の感覚では0が一つ足りないと感じている。今の十倍ぐらい必要ではないか。少なくとも避難所に1名ずつお願いしたとしても600名は必要。是非、レベルを10倍ということをお願いしたい。また全国の自治体が派遣するというのであれば、誰を派遣するとか急には計画は立てられないので、少なくとも3000人体制で計画は組むというレベルで最初から計画を立てていただきたい。

(全国知事会)

現場のニーズも把握して取り扱っていききたい。

(総務部長)

現在の応援職員数は、各市町村から要望があった人数に、満額回答で支援をいただいたものである。今後、要望が増加することは想定されるので、よりの確にニーズを把握し、責任を持って対処したい。

## 5 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

現在判明しているだけで、既に42名の方々の尊い人命が失われている。行方不明の方も9名おられる。

16日未明の本震から3日目となり、人命救助にとって重要な時間的局面が刻一刻と迫っている。

自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様、全員の救出を目指して全力を尽くしていただきたい。何とぞよろしく申し上げます。

また、4月14日の最初の地震発生から、すでに4日が過ぎようとしている。余震が続く中、被災者の方々の不安と疲労もピークに来ておられるのではないかと思う。本部に詰めている方も、現場で救済活動をされている方も、引き続き、被災者の方々が今最も必要とされていることは何かを的確に把握し、生活支援に精一杯努めていただきたいと思う。

今回の災害において、全国知事会や関西広域連合等から多数の職員が応援に入っている。更に、今後、各被災自治体に対して多数の職員の派遣が予定され、大分県からは南阿蘇村にすでに調整員が入り、明日には25名の職員が現地入りすると聞いている。また、福島県からも明日3名の職員が到着するとのことで、心から感謝申し上げます。

(以上)